

鹿野地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年11月8日(火) 19:00～20:30

2 会 場 鹿野町農業者トレーニングセンター

3 出席者 地元出席者 15名

市側出席者 15名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、久野地域振興局長、
綱田都市整備部長、保木本中核市推進局次長、渡邊秘書課長

<鹿野町総合支所>徳岡支所長、乾副支所長(司会)、上野市民福祉課長、
岡田産業建設課長

<事務局>岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課
主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局次長) ※チラシに基づき説明

5 都市計画マスタープランについての説明

(都市整備部長) ※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 鹿野城下町地区内の美装化道路の再生整備について

<地域課題>

鹿野城下町区域では、歴史的な街なみ景観の保存・整備に取り組んでおり、現在、鳥取市の景観形成重点区域に位置づけられている。

行政が行う公的空間(道路・水路等)整備と、住民による私的空間(格子戸や暖簾等による住宅修景)整備や古民家のリノベーション、さらに蓮ウォーク、週末だけのまちのみせ等のイベントづくりなどが奏功し、近年、同区域への入込は大幅に増加し、外国人旅行者の姿も散見されるようになった。

また、今年7月には、地域が大切に守ってきた「熊谷家住宅」、「原田家住宅」が国登録有形文化財として答申されるなど、住民と行政の協働によるまちづくりが着実に進行している。

しかし、その一方で、年次的に美装化してきた街路のカラー舗装の劣化や路盤陥没などがみられる。

景観上及び安全面からも課題となっているため、早急に再生整備をお願いしたい。

<担当部局の所見等>

【鹿野町総合支所、都市整備部】

鹿野城下町区域では、現在、「鳥取市公共施設等総合管理計画」に基づき、維持の観点から道路舗装の状態を調査しており、路線ごとの更新方法を検討しています。カラー舗装の

劣化及び路盤陥没の箇所については、景観等に十分考慮した上で舗装工事を年次的に実施したいと考えています。

また、市道殿町線のカラー舗装については、「街なみ環境整備事業」の美装化計画路線として舗裝修繕工事と併せて整備していきたいと考えています。

(総合支所長)

鹿野地区では、城下町らしい美しい街なみを再現・維持し、誇りを持って心豊かに暮らすことができる地域づくりをしようと、平成6年から継続して、まつりの似合うまちづくりをテーマに、住民と行政の協働による「街なみ環境整備事業」に取り組んでいるところです。

この「街なみ環境整備事業」では、例えば鍛冶町辺りの水音を生かした水路や町内ごとの石造りの行燈、ポケットパークや「鳥取市鹿野往来交流館童里夢」などの公共空間や公共施設の整備、また、住民の皆様の手による藍染めや水路の竹製プランター、木製の消防格納箱など、街なみに合う歴史ある演出を進めてきました。さらに、空き家を活用した「鹿野ゆめ本陣」や「夢こみち」などの新しいスポットの開設、運営、さらには「いんしゅう鹿野盆踊り」は今年の夏に20周年を迎えましたし、「鹿野城下虚無僧行脚」や「城下町しかの蓮ウオーク」、「週末だけのまちのみせ」など、住民の皆様の手により、様々なイベントが生み出されています。

街なみ環境の整備は今年で23年目になり、各地から本当に多くの観光客にお越しいただいています。落ち着いた魅力的なまちが育まれてきたとしみじみと感じているところです。

カラー舗装につきましては、平成16年から平成23年までの8年間をかけ、2,960mの区間について、黒舗装ではなく“地道”のように見える舗装をしてきましたが、平成16年から18年頃に整備した紺屋町や殿町の辺りでは、小石が剥がれて飛散した結果、窪んでいる状況も見られていますし、昨年、鍛冶町でも陥没が確認されており、その都度、黒いアスファルトで補修している状況です。そのため、前回の地域づくり懇談会でもご意見をいただいていますし、鹿野町内の街なみ協定運営委員会の委員さんや、鹿野町地域振興会議の委員の皆様からも早期の改修についてご意見をいただいていたところでした。

鳥取市では、昨年9月に鳥取市公共施設等総合管理計画を策定しています。この計画に基づき、今年8月から12月までの計画で、鹿野地区の城下町の道路の長寿命化のための調査を実施しています。今後は、この調査結果に基づき、最適な修繕方法を精査して、年次的に舗装工事を進めていきたいと考えています。

また、殿町はパン屋もでき、新しい家も建ち始めたエリアです。殿町を走る市道殿町線



は延長が約160mあります。現在、美装化する路線として街なみ環境整備事業の計画路線に位置付けています。ただし、鹿野の城下町地区で実施しているものと同様のカラー舗装は、通常の舗装の約2倍強の経費が必要となることが見込まれています。今後、国の交付金など有利な財源を確保していくことも重要ですが、市道殿町線の整備についても、先ほど説明した、傷んだ箇所を年次的な補修工事と併せて実施していきたいと考えています。

この事業に取り組むことは、鹿野地区、ひいては鳥取市西エリア、そして鳥取市全体の一層の魅力アップに必ずつながっていくものと考えています。

(地元意見)

この件は、2年前の地域づくり懇談会でも要望しました。ようやく今、検討してもらえていると思っています。2年前の地域づくり懇談会の後に、今年の鹿野まつりまでには何とかしたいという市職員の話聞いたと言う地区民もいたので、かすかに期待していました。しかし、将来的に実施してもらえることは分かりましたが、未だに「これから調査」という状態です。パン屋のある路線は水溜まりがひどいです。ここは、通学路になっているのです。地区要望は同じ案件を何度も出さないようにと言われますが、何度言っても対応してもらえないので、毎年要望しています。

今あるカラー舗装の計画はよいのですが、その手前の辺りもほうきで掃くとバケツ1杯分の小石が取れるような状態です。冬はスタッドレスタイヤの目地に小石が食い込んでしまうような状態がずっと続いています。そのため、黒舗装でもよいのでしっかりしたものに早く直してほしいという意見が、集落でもかなりあるのです。修繕を何年頃に実施するという、実施の目途を教えてください。

また、パン屋には町外からもかなりのお客さんが来られますが、パン屋の前の道はカラー舗装ではありません。何とか早急にカラー舗装をお願いします。

(都市整備部長)

道路等の補修を行うに当たっては、有利な財源として国からの交付金をしっかり活用していきたいと考えています。これだけの距離になると1年や2年で実施することはなかなか難しいと考えており、3年から5年程度かけて実施することになると思います。

本年度は道路の中の状態も含めて調査しています。これまでと同様の舗装で修繕するのがよいか、もう少し違う方法があるかなどの検討を行い、今年度中に修繕方法等の方針を固めたいと思っています。

(地元意見)

カラー舗装と併せて電柱の埋設等も計画に入れることは可能ですか。可能なら検討してほしいと以前から思っていました。

(都市整備部長)

道路の中には、例えば下水やガス、上水道などの管が埋設されていますので、電線類の地中化については、道路管理者だけではなく電気通信事業者や各種の管の関係者が集まって年次計画を立てて進めています。現時点でこちらの区域について地中化の計画はあり

ません。

電線類の地中化には、1 m当たり100万円から200万円の膨大な経費が必要となるそうです。そのため、これまで計画していた所も整備がなかなか進んでいないような状況です。いただいたご要望は将来的な課題ということで受け止めさせていただきます。まずは、現在の計画区間の取り組みから進めていきたいと思いを。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

先日、鹿野町で開催された議会報告会で質問したところ、河原町の工業団地はもういっぱいなので、市長は「次は西地域だ」と考えているだろうとの回答でした。そのあたりについて市長から直接聞きたいと思っています。西地域はだんだん人口が減少しており、減少を止めるには働く場が必要だと思いを。

（深澤市長）

議会報告会で説明があったかと思いますが、河原工業団地、新津ノ井工業団地、そして新しい布袋工業団地も、おかげでほとんど土地がなくなってきているような状況です。このところ相次いで企業進出があったため、大変ありがたいことだと思いを。雇用の場の創出により地域の活性化を図っていくといった非常に良い状況が続いていると思いを。

やがて山陰道西道路も整備が進んでいくと思いを。近い将来、鳥取西インターチェンジで鳥取自動車道とつながれば、鳥取西地域も非常に便利な地域に変わり、企業進出等も大いに期待できると思いを。今、内部では、鳥取西地域のどの辺りが適地なのか、おおよそですが調査していこうとしているところです。

鳥取西地域は、今後大いに活性化していく地域だと考えています。西地域に工業団地を確保していくことも、今後具体的に検討を進めていきたいと思いをし、具体的にはまだ決まっていますが、企業誘致にも力を入れていきたいと思いを。

（地元意見）

自動車道ができて、ストロー現象によって人や企業は減少するかもしれません。せっかく企業を誘致しても、企業の経営が危なくなる前に情報を収集し、カンフル剤という形で支援しなければ、鳥取三洋電機の二の舞になります。

（深澤市長）

企業誘致等を進めていくに当たっては、しっかりリサーチしています。リスクはゼロではありませんが、その中でしっかりといろいろな情報を収集し、将来有望で優良な企業の誘致を行っているところです。

（地元意見）

道の駅について詳しい情報がなかなか入ってこない、どのようなコンセプトが分かりません。農産物も含めていろいろ販売するのですが、地元業者を泣かせるようなことになりはしないか、非常に心配しています。地元業者は、ただでさえ小規模零細の業者

が多いです。道の駅によって町の業者の経営が苦しくなり、廃業するようなことになっては大変です。若者は自動車に乗るのでよいですが、そうでない高齢者は、町内に業者がいてくれないければ、1週間に一度や二度来るだけの移動販売車で購入した物のみでは生活できません。

道の駅の考え方や計画について教えてください。

(都市整備部長)

道の駅につきましては、平成27年に基本構想、基本計画に関する市民政策コメントを募集しました。

こちらの道の駅は、「人とまちを元気にする 鳥取・因幡らしさが息づく 西因幡道の駅」というコンセプトを掲げ、この中で、「地域を活かす」、「地域と暮らす」、「地域を感じる」という3つの柱を立てています。

現時点では、仮称浜村鹿野温泉インターチェンジの南側隣接地を建設予定地として検討しています。

今年度は、道の駅の基本設計や測量調査といった調査関係を実施していますので、この調査に基づいて地権者の理解をいただきながら用地を確保し、平成29年度には具体的な建物の実施設計や造成工事、ライフラインとなる上下水道等の管路工事等も進めていきたいと考えています。平成30年度には駅舎本体の工事に着手し、現在のところ、平成30年度末のオープンを目指して取り組むスケジュールを立てています。

道の駅の施設の基本的な目的は、道路利用者のための休憩や道路情報の発信という部分と、食事や土産物の購入ができたり、地域の特産物が販売されていたり、地域の観光情報を発信するなどの地域振興施設としての役割があると思います。また、休憩施設として、トイレ等が標準的な施設になると思いますし、当然、大小の自動車駐車場も整備していくこととなります。

具体的にどのような施設にするかについては、現在市として2つの検討組織で検討を進めています。一つは、「鳥取市気高道の駅(仮称)」整備推進委員会です。これは国、県、市と、そして警察と、学識経験者として大学の先生等にも委員になっていただき、基本計画の部分の詰めを行っているところです。現在までに2回開催しており、今年中に第3回を実施して、どういった内容で整備を進めていくべきか検討したいと考えています。もう一つの検討組織として、「気高道の駅(仮称)」推進ワーキンググループを設置しています。この道の駅は、気高町、鹿野町、青谷町といった西因幡の魅力をアップする施設ですので、ワーキンググループの中で、3地域の幅広い皆様から地元としてのご意見をいただき、道の駅の内容や運営の参考にするという取り組みをしています。このワーキンググループも、現在まで3地域でそれぞれ2回開催しました。今後、スケジュールに沿って、地域の皆様からいただいた意見の集約を行い、その意見を参照しながら「鳥取市気高道の駅(仮称)」



整備検討委員会で中身を詰めていく予定としています。

地域の皆様や地元の業者さんを泣かすことのないように、とのご意見をいただきました。

私どもは、西地域の特産物や観光資源などの多様な地域資源を活かしていかなければいけないと考えており、その中で人や物が集まる道の駅を目指したいと思っています。そういうこともあり、地域の皆様で構成されたワーキンググループの声を参考にしたいと考えていますし、地元の特産品や農林水産物等の販売加工開発等の連携について、今後、農業者や漁業者の皆さんや関係団体との調整も並行して行っていきたいと考えています。

地域の皆様に愛されてご利用いただける道の駅を目指していきたいと考えています。

(地元意見)

道の駅については私も危惧していますので、質問というより要望として発言します。

地域の活性化となれば地域が盛り上がりなければいけません。そのためには、情報をどんどん流してほしいです。一部の人作り上げているようなイメージでは、地域は盛り上がりません。

地域の業者を泣かすなという発言についても同様の意見です。パイが広がらなければいけないと思います。道の駅にミニスーパーのようなものができてしまうと、結局地域の人もそこに買い物に行ってしまうこととなります。自動車道からいかに人に降りてきてもらうかということを考えていかないと、いくら良いコンセプトを掲げても、今までの業者は泣くこととなります。

(地元意見)

今の時代において、光ケーブルが整備されているかどうかというのは、起業において、あるいは工業団地等では非常に必要なことです。しかし、鹿野町はまだ網羅されてないと認識しています。どのような計画になっているのでしょうか。

(深澤市長)

光ケーブルの敷設については、以前議会の一般質問等でも出た事があります。

起業される方、特に画像等を取り扱う方は大容量でないと難しいとのことですが、光ケーブルを敷設することにはなかなかありませんので、当面は情報ハイウェイ等がきているエリアで活用いただくことになると思います。

特に移住定住される方等で、デザインや画像に取り組んでいこうとしておられる方にとって必要なものだという認識はしていますので、市全域でもっと必要性が高まれば対応していかなければならない課題だと思っています。なかなかよい回答ができませんが、ご理解ください。

(地元意見)

夏に、ボランティアで鹿野中学校の壁のペンキ塗りをしましたが、幾つかの教室の天井が剥いてありました。なぜ剥いてあるのか聞いたら、雨漏りがするからとのことだったのですが、その後雨漏りは修繕したのでしょうか。修繕していない場合、雪が降って積もったら必ずまた雨漏りすると思います。

(総合支所副支所長)

天井のボードは、落ちそうなものをわざと落としてあると聞いています。応急的な処置はしてあり、基本的に雨漏りをする状況にはないと認識しています。

(地元意見)

最近行きましたが、バケツで受けていました。

(総合支所副支所長)

それでは、再度確認します。

(担当課補足：教育委員会鹿野町分室)

平成28年11月9日に現地確認したところ、1年A組、B組の教室において屋上から雨漏りしていました。現在、雨水が教室に落ちないように、天井裏にたらい等で応急処置を施しています。

雨漏り解消のため、平成29年度に校舎屋上の防水工事及び教室天井の修繕工事を実施する予定です。

(地元意見)

有線放送がなくなると聞いています。現在、各戸の有線放送で情報を入手していますが、有線放送がなくなるとどうなるのでしょうか。ケーブルテレビに情報が流れるのでその情報を取りにいかなければいけないとか、屋外からの放送のみになるという話も聞きます。屋外からの放送だと、雨や雪が降った時や窓を閉めている時は聞きづらいと思います。また、高齢者だけの世帯に対して「情報を自分で取りにいきなさい」と言って、本当に情報がいき渡るのか疑問です。

(地域振興局長)

有線放送ではなく、防災行政無線に関するご質問だと思います。同様のご意見は、他の新市域の地域づくり懇談会でも挙がっています。

平成16年の市町村合併以降も、それまで各町村が運用していたアナログ方式の防災行政無線を活用し、支所地域ごとに異なる周波数で戸別放送を行ってきました。戸別放送では、防災上の情報だけではなく行政情報、地域情報も放送しています。

デジタル方式に移行すると、鳥取市防災行政無線として周波数が一本化され、タイムラグがなくなります。先日発生した鳥取県中部地震の際に流れた「J-ALERT (J-アラート)」のような国からの情報が、タイムラグなく瞬時に流れるようなシステムにしたいと考えています。

デジタル化に伴い、現在皆様のご家庭に設置されている戸別受信機はなくなります。新システムでは、今まで行われていたような戸別放送はできなくなりますので、ご理解いただきたいと思います。ただ、様々なところで、行政情報や地域情報について今までどおり音声放送が必要だとの声をいただいていますので、現在、対応について検討、研究してい

ます。もちろん全戸に戸別受信機を設置する方法もありますが、莫大な費用がかかるため実現が難しい状況にあります。その他、ケーブルテレビに端末を設置し音声告知ができるシステムもあります。あるいは、地域情報を流すため、有線放送設備の整備に対して初期費用を支援する方法もありますし、他市では許可のいない簡易な無線放送システムを導入している地域もあります。どのような形がよいのか、早急に検討したいと考えています。

(防災調整監)

防災行政無線のデジタル化は、今年度、青谷地域で実施しており、鹿野地域は来年度以降の実施予定です。鳥取地域と国府地域はすでに一本化されていますが、こちらと同様、屋外拡声子局と呼ばれる屋外スピーカーのみの設置となり、戸別受信機で防災情報を流すという形ではなくなります。その上で、地域の自主防災会会長のお宅や消防団のお宅、民生委員さんのお宅などに戸別受信機を設置することで確実に情報が伝わるように整備を進めています。最終的に、平成31年に全市で防災行政無線を整備する計画です。

(地元意見)

戸別受信機はなくなるのですよね。繰り返しになりますが、屋外スピーカーだと、雨が降った時や窓を閉めている時は聞こえないと思います。その結果、情報が入ってこないということになるのではないのかと思います。防災面で考えても、雨が降ったりする時の方が必要になるものではないかと思うのですが、どう考えているのですか。

(防災調整監)

たしかに、天候の具合や窓を閉めているなどの状況によっては、放送内容が聞き取れないこともあります。何か放送しているようだとお気づきになった時には非常事態だと捉えていただき、テレビやラジオをつけていただく、あるいは防災行政無線で放送した内容を確認していただける電話番号に電話していただく、あんしんトリピーメールを確認していただくなどの対応をお願いします。防災行政無線は、いろいろある情報伝達手段の中の一つだと考えています。市としては、いろいろな伝達手段を併用して情報をお伝えしていくことを考えています。

(地元意見)

要するに、今はじっとしていても情報は入ってくるが、これからはじっと待たずに取りにいきなさいということですね。ということは、サービスの低下と捉えてもよいのですね。高齢化や過疎化が進む中で自分で動きなさいと言うのだから、サービスの低下ですよね。そのあたりはどう考えていますか。

(防災調整監)

現在は戸別受信機が各戸に設置されているという点で考えると、おっしゃる面も確かにあるかもしれませんが、ただ、皆様が24時間必ず戸別受信機の放送が聞こえる家の中におられるということでもないと思います。ですから、情報を取りに行くことがサービスの低下につながるという考え方には、いろいろな見方があると思います。

やはり、「自分の身はまず自分で守る」ということを心がけていただくことが必要ではないかと考えています。

(深澤市長)

肝心なところをどうしても一つお伝えしたいと思います。

デジタル化の整備に当たっては、屋外には屋外拡声子局を設置し、町内会長や防災関係の方、消防団の方等のお宅に戸別受信機を配置する計画にしています。旧鳥取市域と国府地域で順次整備してきましたが、今後、全市的に整備する計画です。

一番大きな違いは、デジタル方式に移行すると、「J-ALERT (J-アラート)」という緊急情報が非常に早く届くようになることです。今の方式と比較すると、おそらく20秒程度違いがあると思います。これが一番大きなメリットだと思います。

現在、様々な行政情報や地域情報を防災行政無線で放送している実態があると思います。そのあたりがどうなるのかという懸念がおりかと思いますが、これについては、デジタル方式に移行するに当たって全市的に補っていく必要があるのではないかと考えています。来年度からでも方策を講じていく必要があるのではないかとということで、現在検討しているところですので、サービス低下ということにはならないと思っています。

ただ、防災という視点では、地震などの大きな災害等が発生した場合に瞬時に伝えることができることが大きなメリットであり、そのために新方式に切り換えを行うのだというところを、まずはぜひともご理解いただきたいと思っています。

(地元意見)

瞬時にというのは分かりますが、瞬時に各戸に伝わるわけではないのですよね。瞬時に伝わるとは、どこに伝わるのですか。

(深澤市長)

屋外拡声子局は、緊急放送時にはかなりの音量になります。設置の際には、地域の皆様のご意見も伺いながら、この集落ではこの辺りが全戸に一番よく届くのではないかとこの場所に配置しています。それでもやはり聞き取りにくいとのことで増設したところもあります。できる限り放送が届くように設置していかなければいけないと思っています。

にもかかわらず、例えば風や雨が激しく放送がよく聞き取れないなどの場合には、放送内容を確認していただく方法もありますし、何より現代はICT技術が発達していますので、一つの情報伝達手段だけではなく、メールやSNS、ケーブルテレビ等を活用した伝達方法など、複数の媒体を組み合わせることが大切ではないかと思っています。そのあたりをご理解いただきたいと思っています。

(地元意見)

分かりました。特に災害時には、高齢者等にも伝わるような方策を考えてほしいです。聞こえづらい所で増設した前例もあるとのことなので、対応をお願いして意見を終わります。

(地元意見)

介護保険が施行されて20年もしない間に、保険料が3.6倍に上がりました。

今後の介護保険制度を維持するためという理由で、要介護の手前である要支援1と2の人がサービスから外されてしまいます。それでデイサービスの費用が高くて通えなくなったという人がいます。それは詐欺ではないですか。

(深澤市長)

日本の介護保険制度は平成12年に始まりました。どのような制度にしていくかについては、国を挙げて様々な議論がありました。最近では、介護給付費がどんどん増加しているという実態があり、この制度をどのように国全体や地域で支えていくのかということが大きな課題になっています。国でも様々な議論がありますが、皆で考えていかなければならない問題です。

要支援1、2の方のサービスについては、今後は市町村で独自にやりなさいということになりました。鳥取市では、従前の制度や内容が後退することのないよう取り組んでいこうとしています。何よりも、介護が必要な状態にならないような取り組みが必要だと考えています。それは市町村でも取り組んでいく必要がありますし、国を挙げて考えていかなければならない課題だと思いますので、そのあたりはぜひともご理解いただきたいと思えます。

(地元意見)

耕作放棄地が増加していて目につきます。高齢化による農業の担い手の減少や、世代交代がうまくいかないなどの理由で増加しているのだと思いますが、子ども達も暮らしている地域の中では、大量に草などが生えて荒れた耕作放棄地は、大変危険な場所になっています。私の家の近くにもそのような場所があり、昨年公民館長をしていた時に総合支所に相談しましたが、何も手立てを打ってもらえませんでした。市としてどう考えているのかを聞きたいです。

(深澤市長)

現在、農業の担い手不足や就農者の高齢化、それらを原因とする耕作放棄地の増加など、非常に大きな課題があります。これをいかに解消していくかというのは難しい問題ではありますが、鳥取市も、耕作放棄地がこれ以上増加しないよう担い手を探して耕作していただく仕組みや、個人で農業を営むのは大変ですので、法人を設立して営む「法人化」の仕組み、また、専業で農業をしたい方に農地を集積していく仕組みなど、いろいろな取り組みをしています。

また、後継者を育てていくことが必要ですので、鳥取市は従来から「とっとりふるさと就農舎」の取り組みを進めています。これは、地元の若い方のみならず、市外、県外の農業を学んで就農しようという方に2年間の研修を受けていただき、就農していただく施設です。

農業の問題は、非常に難しいです。米価の下落やTPP問題など、いろいろと難しい状況にありますが、一つ一つのことに丁寧にしっかり取り組んでいきたいと思えます。

(総合支所長)

鹿野町内では最近、耕作放棄地を上手に活用した取り組みも生まれつつあります。

一つは、閉野で行われている取り組みです。「DJプロジェクト」と名づけ、ドジョウの養殖に取り組まれています。先日も、山紫苑を利用して、地域の新しい食材としての売り出しもされました。

また、耕作放棄地が増えるのを何とかしようと、NPOいんしゅう鹿野まちづくり協議会と河内集落の農家と一緒に、耕作放棄地を果樹園に変えていく取り組みも始まっています。取り組みが始まって1年ほど経過していますが、イチジクなどが植えられた2ha程度の果樹園が生まれつつあります。5haを最終的な目標として造成が進んでいるようです。つい先日も、約200本の苗を植えられました。そこで収穫したイチジクをジャムにして、道の駅で販売してはどうかという検討も始まりつつあります。

鹿野町は以前から、耕作放棄地が増加しないようにとの思いを込めてソバの栽培にも取り組んできました。今後も、住民の皆様と一緒にいろいろな取り組みを進めていきたいと考えています。よいアイデアがあれば、どんどんお寄せいただきたいと思います。

(地元意見)

耕作を放棄している人に対する対応は何かあるのですか。荒れている所が目立つのですが。

(深澤市長)

所有者が放置され、雑草か何かが増えているような状況でしょうか。鳥取市で対応することは難しいと思います。所有者の方が判明していれば、管理をお願いして対応していただくことしかないと思います。何よりも、耕作放棄地がこれ以上増えないよう工夫していくことが大切ではないかと考えます。

(地元意見)

今年、鳥の劇場が改修され多くの方が訪れていますが、旧幼稚園の事務室の所は樋がぼろぼろになっていて、大雨の時には道路に落ちてきます。多くの方が来られるのに、樋ぐらい直せないのだろうかと思います。市が修繕するものか鳥の劇が修繕するものかは分かりませんが、もし鳥の劇場が修繕するものなら、市から指導してはどうですか。

(深澤市長)

この度、BeSeTo演劇祭の開催に間に合うよう、大規模な改修を行ったところです。私も状況を把握していませんので、まずは、総合支所が確認します。

(地元意見)

取り付けられている煙突も4月の強風で足場が飛んで壊れたのに、修繕せずそのままになっています。

(総合支所副支所長)

煙突は鳥の劇場が独自に設置したものだと思います。それも含め、現地を確認します。

(担当課補足：鹿野町総合支所地域振興課)

雨樋の修繕について平成28年11月9日に現地確認したところ、鳥の劇場に無償貸付している旧鹿野幼稚園北側の雨樋の一部が、雨樋を支える金具の腐食により、若干垂れ下がっています。旧鹿野幼稚園の修繕等については、貸付契約により鳥の劇場に実施していただくことになっており、対策をお願いしています。

また、煙突は鳥の劇場が設置されたものであり、この修繕等についても雨樋とあわせ、対策をお願いしています。

(地元意見)

自治会のお金が少ないために、運営がうまくできません。また、私は現在老人会長をしていますが、これも市の補助が少なく持ち出しが多いです。

鹿野地区は会社に勤めた人が少なく、一次産業の人が多いため集金が大変です。

地区公民館には職員が4人います。地区公民館長は半日しか仕事をしていないし、残りの職員が3人いますが、1人減らせばその分の給与が12、3万円浮くと思います。そのお金を各集落に分配して運営費を生み出せばよいと思います。

浮かせるなら浮かせて自治会や老人クラブに補助するよう、検討をお願いします。

(深澤市長)

一つのご提案として受けとめさせていただきたいと思います。

地区公民館の職員には、生涯学習や地域コミュニティの拠点としてはもちろん、様々な面で活躍いただいていますので、現在の人員を減らすことは、現時点で私は考えていません。

自治会や老人クラブ等の運営にかかる補助金を今後増額していくこともなかなか難しいと思いますので、まずは今の範囲内で運営していただくようお願いしたいと思います。

8 市長あいさつ

お礼のご挨拶を申し上げます。夜分にもかかわらず、非常に熱心にご参加いただきご議論いただいたことに、心から感謝申し上げます。

いただいたご質問やご提案は、いずれも大変重要な問題ばかりだと思っています。よい回答を申し上げることができなかった部分もあったと思いますが、今すぐ対応できないことについても持ち帰り、今後の課題として位置付けたいと思っています。

道路舗装の問題は、2年前の地域づくり懇談会でも問題提起をいただきました。担当部長とも、早速来年度から具体的に組み込んでいきたいと話をしているところですが、いかんせん国の財政状況が非常に厳しいという状況もあります。交付金等の有利な財源を活用しながら、できる限り早い段階で対応したいと思っています。

この地域づくり懇談会は2年に一度の開催ということで、皆様とこうやって話しさせていただく機会は少ないですが、懇談会とは別に、またいろいろなご意見、ご要望、ご提

案等をいただければ大変ありがたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。
ご参加いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。
本日は本当にありがとうございました。